

拒絶理由通知書

| | |
|----------|-----------------|
| 特許出願の番号 | 特願2000-089410 |
| 起案日 | 平成15年10月22日 |
| 特許庁審査官 | 土屋 知久 8826 2K00 |
| 特許出願人代理人 | 机 昌彦(外2名) 様 |
| 適用条文 | 第29条第2項 |

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項1、3に対して
引用文献1、2

備考

引用文献2(【0014】欄)には、活性層からメサに至る層のドーピングの程度や厚さを適切に設定することによって、安定な自励発振特性を得ることができると記載されており、この点を引用文献1記載の発明に適用することは、当業者が容易になし得たことである。

なお、引用文献1では、特に、第1の実施形態の記載を参照のこと。

- ・請求項2に対して
引用文献1～3

備考

レーザの自励発振が水平横方向の屈折率差が、レーザの自励発振に影響を及ぼすことが、引用文献3に記載されており、該屈折率差を如何なる値とするかは、当業者が実験等により適宜設定できたものである。

なお、引用文献3では、特に、【0006】－【0007】欄を参照のこと。

・請求項4に対して

引用文献1、2

備考

引用文献2には、(001)面が[110]方向に5度以上傾斜した基板を用いることが記載されており、また、圧縮歪を有する量子井戸を採用することは、周知技術である。

引用文献等一覧

1. 特開平11-87831号公報
2. 特開平11-354895号公報
3. 特開平10-144992号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第7版
 H 0 1 S 5 / 0 0 - 5 / 5 0

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第一部 光デバイス 土屋知久

TEL. 03 (3581) 1101 内線3253

FAX. 03 (3580) 6902